

令和7年度 井原市立野上小学校 学校評価書

井原市立野上小学校
校長 平木 康晴

1 学校経営目標

<p>思いやりのある子 (1) 豊かな心の育成 (2) ふるさと井原の未来を創るひとづくり・地域とともにある学校づくりの推進 (3) 学級や学校での人間関係づくり</p> <p>自ら学ぶ子 (4) 自ら学び自ら考える子どもの育成 (5) 特別支援教育の充実</p> <p>元気でやりぬく子 (6) 健康教育・安全教育の充実</p>
--

2 自己評価

<p>(1) 豊かな心の育成では、「良いとこみつけ」「ありがとうみつけ」を日常的に行い、思いやりのある言動をとることの大切さを実感できるようにしている。読書活動の啓発を工夫して行っており、読み聞かせ等は楽しみにしているが、積極的に読書活動に取り組むことを好まない児童もいる。ふるさとを大切にす心情や相手を思いやる気持ちを育むために、学校行事や地域の皆さんとの交流活動はとても有効であった。今後も継続していきたい。</p> <p>(2) ふるさと井原の未来を創るひとづくり・地域とともにある学校づくりの推進では、地域の皆様のご理解とご協力のもと、様々な体験を通して子どもたちは成長することができた。夏祭りやとんどなどの自由参加の地域行事も、多くの児童が楽しみにしており、積極的に参加する姿が見られた。タイムリーなブログの更新ができにくかった。イベント後などの早急な更新を心がけたい。</p> <p>(3) 学級や学校での人間関係づくりでは、休み時間にも職員が見守ることで、多くの児童が安心して、学年を問わずみんなで仲良く遊ぶ姿が多く見られている。教育相談を1回目は担任と、2回目は児童が望む教員と行うことで、児童がより話しやすい雰囲気をつくり、児童の実態把握に役立てるようにしている。</p> <p>(4) 自ら学び自ら考える力の育成では、「個を生かす支援・指導の在り方の研究を通して」という研究テーマのもと、支援・指導の工夫に取り組んだことにより、一人ひとりがそれぞれの課題意識をもって学習に取り組む姿が多く見られるようになってきている。</p> <p>(5) 個別の指導計画に基づく指導を進め、児童の成長を促すとともに、通常学級における授業のユニバーサルデザイン化、専門機関との連携等を推進することができた。また、特別支援教育の専門家(大学准教授、療育機関関係者、SC、SSW等)を講師にお招きし、効果的な研修を重ねることができた。</p> <p>(6) 健康教育・安全教育の充実では、生活リズムカードを定期的実施し、基本的な生活習慣について見直す機会をつくっている。早寝・早起きやメディアの利用について、課題のある児童がいる。家庭と連携した取り組みが必要となっている。</p>
--

3 学校関係者評価(評価者名)

評価者	
宮本 節夫(公民館長)	渡辺 恭子(地域コーディネーター)
藤原 猛(自治連合会会長)	森本 潔(まちづくり協議会会長)
田中 哲夫(地区社会福祉協議会会長)	田中 正典(青少年を育てる会会長)
三村 宣充(民生児童委員協議会会長)	三宅 敬(野上小・幼PTA会長)

4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

<p>①小規模校の良さを生かし、個に応じた指導方法の工夫を続け、自ら学び考える態度の育成と基礎的基本的な学力の定着を図っていく。</p> <p>②家庭での生活リズムの乱れにも課題が見られることから、保護者と連携しながら、家庭での生活習慣全般について改善を図っていく。</p> <p>③地域等と連携した教育実践については、引き続き継続していく。また、他校との交流も、青野小学校を中心に、交流クラブや交流学習、さらに体験活動を積極的に行っていく。</p>

〈別紙資料〉

(井原市立野上小学校)

学校経営目標等	具体的計画	自己評価		学校関係者評価	評価
		達成状況	評価		
豊かな心の育成	①道徳教育の推進 ②読書活動の充実 ③地域や幼稚園、他校との連携	①良いところ見つけ、ありがとう見つけを日常的に行い、思いやりのある言動をとることの大切さを実感できるようにしている。 ②図書室利用の啓発や読み聞かせを継続して行っている。 ③地域の方の協力を得て多様な活動に取り組むことができた。	B B A	思いやりのある言動が多く見られ、みんな仲良く過ごしている。 子どもたちが興味を示す本を増やすなどして、本好きになる工夫を継続して欲しい。	B
ふるさと井原の未来を創るひとづくり・地域とともにある学校づくりの推進の推進	①地域学校協働事業による開かれた学校づくりの推進 ②学校だよりやホームページ等による地域への情報発信	①地域の皆様のご理解とご協力のもと、様々な体験を通して子どもたちは成長することができている。 ②ブログ更新は不十分だったが、お知らせ君を利用した子どもの声での情報発信はできた。	A B	学校と地域との距離が近く、地域連携が充実している。 引き続き情報発信の仕方を工夫して欲しい。	A
学級や学校での人間関係作り	①生徒指導の充実 ②教育相談の実施	①個別の課題について、全職員で情報共有し、誰もが同じ方向性の指導をするよう心掛けている。 ②児童の悩みを早期発見し、適切な対応をとることができるように努めている。	B B	幼稚園児から小学校6年生の児童まで、みんな仲良く活動している。 引き続き、一人ひとりに寄り添い、安心して生活できる学校にして欲しい。	A
自ら学び自ら考える力の育成	①基礎的・基本的な内容の確実な定着 ②個に応じた効果的な指導 ③体験活動の重視	①既習事項の定着にやや課題があり、今後も工夫が必要である。 ②個に応じた指導・支援の工夫を進め、みんなが活躍できる授業づくりを意識している。 ③体験活動と結びつけ話す書く活動を積極的に行っている。	B B B	授業に前向きに取り組めるように工夫しているので、次は学習内容が定着するよう試行錯誤しながら実践して欲しい。	B
特別支援教育の充実	①個別の指導計画に基づく指導の充実 ②特別支援教育の視点を生かした授業改善	①児童のニーズの把握に努め、日常的な指導の積み重ねを通して児童の成長を促した。 ②授業のユニバーサルデザイン化に取り組むとともに、特別支援教育の視点で授業改善を行った。	B A	学校全体が、特別支援教育の視点をもって授業改善を進めていることがよくわかる。	A
健康教育・安全教育の充実	①保健教育、食育の推進 ②体力作りの推進	①チャレンジカードを使っての生活習慣づくりや、栄養教諭と連携した食育の授業を行った。 ②業間や昼の休み時間には、職員も一緒に外で体を動かした。また、運動習慣について保護者も対象とした講演会も実施した。	B B	全学年の児童が、しっかりコミュニケーションをとれており、休み時間にはみんなでしっかり体を動かして遊んでいる。 保健指導、食育の推進は、よく工夫して実践できている。	A